

Title	有末賢教授略歴・主要業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2017
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.90, No.1 (2017. 1) ,p.455- 469
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	有末賢教授退職記念号
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20170128-0455">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20170128-0455</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 有末賢教授略歴

### 学歴

一九七二年三月	東京都立大泉高等学校卒業
一九七三年四月	慶應義塾大学法学部政治学科入学
一九七七年三月	同大学同学部卒業
同年四月	慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程入学
一九七九年三月	同大学院修士課程修了
同年四月	同大学院社会学研究科社会学専攻博士課程入学
一九八二年三月	同大学院博士課程単位取得満期退学

### 学士号・学位

法学士（慶應義塾大学）	一九七七年三月三一日授与
法学修士（慶應義塾大学）	一九七九年三月三一日授与 修士論文名：「批判的社会学序説」
博士（社会学）（慶應義塾大学）	二〇〇一年一月二七日授与 博士論文名：「生活史の社会学—その方法と課題—」

所属学会及び入会年月

関東社会学会 一九七七年六月入会（理事「通算四期」、会長・二〇〇九（一一年））  
日本社会学会 一九七七年一〇月入会（二〇〇三（〇六年）・理事、二〇一三（一五年）・理事、『社会学評論』編集委員長）

日本民族学会（現・日本文化人類学会）一九七九年四月入会

地域社会学会 一九八一年五月入会（一九九一（一九五年、一九九八）〇二年、二〇〇四（〇六年、二〇一二（一四年）・理事）

日本生活学会 一九八一年六月入会（一九八三（八五年）・幹事、二〇〇〇（〇二年）・理事、二〇〇三（〇七年）『生活學論叢』編集委員長、二〇一四（一六年）・理事）

日本都市社会学会 一九八一年四月入会（一九九三（九七年）・編集委員会座長、一九九七（一九九年）・理事、二〇〇三（〇五年）・理事）

日本移民学会 一九九四年一一月入会

日本都市学会 一九九九年七月入会

国際社会学会 一九八五年九月入会

日本オーラル・ヒストリー学会 二〇〇三年九月入会（理事・編集長・二〇一五（一七年度）・会長）

三田社会学会 一九八五年入会（一九九四年（幹事、二〇一五（二〇一七年度）・会長）

職歴

一九八二年四月

慶應義塾大学法学部専任講師

（一九八五年四月 ～八七年三月 ）	英國工セックス大学社会学部訪問研究員福澤基金にて留学
（一九八八年四月 ～九九年一月八月 ）	慶應義塾大学法学部助教授
（一九九一年八月 ～九二年七月 ）	中國・北京日本学研究センター客員助教授国際交流基金にて出張）
（一九九六年四月 ～九九年三月 ）	慶應義塾大学法学部教授
（一九九八年三月 ～二〇一六年三月 ）	英國ケント大学社会学部及びオーストラリア・メルボルン大学日本研究部訪問教授 慶應義塾 大学派遣留学にて）
（二〇一六年三月 ～四月 ）	慶應義塾大学（選択）定年退職
（二〇一六年四月 ～ ）	慶應義塾大学名誉教授
（ ～ ）	亞細亞大学都市創造学部教授
非常勤講師他	
（一九八三年四月～八四年三月 ～一九八七年一〇月～八八年九月 ）	立教大学社会学部講師 演習I・II (株)東急総合研究所 第一期研究会講師
（一九九〇年二月 ～一九九一年四月～七月 ）	お茶の水女子大学大学院（人文科学研究科修士課程）講師 社会学特論II 社会調査論、演習I・II
（一九九三年一月 ～一九九四年二月 ）	神奈川県自治総合研究センター 社会学研修講座 神奈川県自治総合研究センター 社会学研修講座
（一九九三年一月～一二月 ）	(株)東急総合研究所 第六期研究会講師

一九九三年四月～九六年三月	明治学院大学社会学部講師	都市社会学Ⅱ
一九九三年四月～九四年三月	専修大学文学部講師	社会学特殊Ⅱ
一九九三年八月～九四年三月	社会経済国民会議エネルギー問題特別委員会政策専門部会委員	
一九九三年一〇月～九四年三月	小平市立仲町公民館市民講座講師	
一九九三年一二月～九四年九月	(株)東急総合研究所 第七期研究会講師	
一九九六年一二月～九八年三月	とちぎ総合研究所「新首都構想研究会」研究委員	
一九九七年一月	小平市立中央公民館シルバーハウス講師	
一九九七年四月～九月	埼玉大学教育学部（家庭科教育学専攻）講師	生活文化論
一九九九年四月～二〇〇〇年九月	調布学園短期大学人間福祉学科講師	社会学
二〇〇〇年四月～〇一年三月	日本大学文理学部社会学科講師	地域社会学、社会学応用演習Ⅰ
二〇〇〇年九月～〇一年三月	東京大学文学部社会学科講師	社会学特殊
二〇〇一年六月～〇二年八月	二〇〇二年公務員採用Ⅰ種試験（人間科学Ⅱ）試験専門委員（人事院）	
二〇〇二年一月～〇七年一一月	東京都港区社会教育委員	
二〇〇七年四月～〇八年三月	大学評価委員（独立行政法人 大学評価・学位授与機構）	
二〇〇九年六月～一二年三月	東京都大田区男女平等推進区民会議委員（後半二年・座長）	

## 賞 罰

一〇〇一年度日本都市学会賞（奥井記念賞）受賞  
受賞対象：『現代大都市の重層的構造』（ミネルヴァ書房、一九九九年刊行）

## 有末賢教授主要業績

### I. 編・著書

1. 川合隆男・原田勝弘・佐藤茂子・霜野寿亮・有末賢・鹿又伸夫共著『社会学—現代社会学の課題』勁草書房、一九八四年四月
2. 石川弘義・津金沢聰広・有末賢・佐藤健二・島崎征介・蘭田碩哉・鷹橋信夫・田村穰生・寺出浩司・吉見俊哉編『大衆文化事典』弘文堂、一九九一年三月
3. 有末賢・霜野壽亮・関根政美編著『社会学入門』弘文堂、一九九六年三月
4. 有末賢・大石裕共著『CDレッスン 社会学・マス・コミュニケーション論入門』慶應義塾大学通信教育部、一九九七年九月
5. 有末賢『現代大都市の重層的構造—都市化社会における伝統と変容』ミネルヴァ書房、一九九九年三月
6. 有末賢・内田忠賢・倉石忠彦・小林忠雄編集『都市民俗生活誌』全三巻、明石書店、二〇〇二年六月～二〇〇六年三月
7. 有末賢・関根政美編『戦後日本の社会と市民意識』（叢書21COE-CCC多文化世界における市民意識の動態7）慶應義塾大学出版会、二〇〇五年三月
8. 大谷幸夫・北川隆吉監修『講座 日本の都市社会 第5巻』北川隆吉・有末賢編著『都市社会研究の歴史と方法』文化書房博文社、二〇〇七年六月
9. 大谷幸夫・北川隆吉監修『講座 日本の都市社会 第3巻』有末賢・北川隆吉編著『都市の生活・文化・意識』

10. 文化書房博文社、二〇〇七年八月  
渡辺秀樹・有末賢編『多文化・多世代交差世界における市民意識の形成（叢書21COE-CCC多文化世界における市民意識の動態 36）』慶應義塾大学出版会、二〇〇八年一月

11. 倉石忠彦・内田忠賢・有末賢・小林忠雄編集『都市民俗基本論文集』全四巻+別冊二、岩田書院、二〇〇九年一月  
○月（一二年四月）

12. 有末賢『生活史宣言—ライフヒストリーの社会学』慶應義塾大学出版会、二〇一二年八月

13. 浜日出夫・有末賢・竹村英樹編著『被爆者調査を読む—ヒロシマ・ナガサキの継承—』慶應義塾大学出版会、二〇一三年三月

14. 澤井敦・有末賢編著『死別の社会学』青弓社、二〇一五年五月

## II. 学術論文

1. 「批判的社会学の知識構造—パラダイム概念を軸として—」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第二〇号、三七一四五頁、一九八〇年二月
2. 「第五章 修驗寺院の社会的機能」宮家準編『修驗者と地域社会—新潟県南魚沼の修驗道—』所収、一五五一八八頁、名著出版、一九八一年九月
3. 「都市民俗研究への一観角—新たな分析視角の模索—」『哲学』（慶應義塾大学三田哲学会）第七三集、一〇一一二三頁、一九八一年二月
4. 「都市祭礼の重層的構造—佃・月島の祭祀組織の事例研究—」『社会学評論』（日本社会学会）第三三卷第四号（二三三号）、三七一六二頁、一九八三年三月
5. 「生活史研究の視角」『慶應義塾創立一二五年記念論文集法學部政治学関係』所収、三四五—三六六頁、一九八三

年一月

6. 「地域社会研究と地域文化論—現代都市社会学の転回—」『法学研究』（慶應義塾大学法学研究会）第五七卷第八号、一一二七頁、一九八四年八月
7. 「生活研究とライフ・ヒストリー—生活史研究から—」川添登編『生活学へのアプローチ』所収、四九一六八頁、ドメス出版、一九八四年一二月
8. 「インナーシティ問題と歴史的生活環境—東京佃・月島の祭礼集団を通して—」『法学研究』第五八卷第二号、一六七一一九六頁、一九八五年二月
9. 「ロンドン—ヨーロッパの都市—」藤田弘夫・吉原直樹編著『都市—社会学と人類学からの接近—』所収、一〇一—一二二頁、ミネルヴァ書房、一九八七年四月
10. 「生活史と『生の記録』研究—ライフ・ヒストリーの解釈をめぐつて—」『法学研究』第六一卷第一号、一三三一—二六二頁、一九八八年一月
11. 「都市民俗のダイナミズム—都市化と社会変動—」岩本道弥・倉石忠彦・小林忠雄編『都市民俗学へのいざないII 情念と宇宙』所収、二六一—二八〇頁、雄山閣出版、一九八九年五月
12. 「大都市構造の変動と『東京問題』—ロンドンと東京の都心居住をめぐつて—」『法学研究』第六四卷第一号、一三二頁、一九九一年二月
13. 「東京化と地域社会」今田高俊・友枝敏雄編『社会学の基礎』所収、二〇七一三五頁、有斐閣Sシリーズ、一九九一年五月
14. 「都市社会と意味の重層性—都市における構造と意味—」地域社会学会編『地域社会学会年報第五集 都市・農村の新局面』所収、五九一八九頁、時潮社、一九九一年五月
15. 「ウォーターフロント開発と佃祭りの変貌」『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第九号、一四一四三頁、一九九一年二月

16. 「質的社会学としての生活史研究」『法学研究』第六五卷第一号、二五九一—二八五頁、一九九二年一月

17. 「下町の生活世界—重層的都市文化への生活史的アプローチ—」森岡清志・松本康編『都市社会学のフロンティア2 生活・関係・文化』所収、一九七一—二三二頁、日本評論社、一九九一年六月

18. 「現代日本社会と「ポスト・モダン」状況」『日本学研究2』(北京日本学研究中心編)二二九一—二五一頁、科学技術文献出版社(中華人民共和国・北京)、一九九二年一二月

19. 「意味の社会学」と生活史研究』『社会学年誌』(早稲田社会学会)三四号、六一—七四頁、一九九三年三月

20. 『生活史の社会学』中寫邦・松平誠編『講座生活学第3卷 生活史』所収、六一—八七頁、光生館、一九九三年九月

21. 「現代大都市の理論的地平—世界都市化における〈空間〉の理論—」『法学研究』第六七卷第三号、一一二三頁、一九九四年三月

22. 「東京・下町の生活文化における「伝統と変化」」『季刊家計経済研究』(財団法人家計経済研究所)一九九四・秋(通巻第二四号)、二二一—二九頁、一九九四年一〇月

23. 「戦後日本社会の価値意識の変化—余暇と自己実現を中心にして—」『法学研究』第六七卷第二二号、五五一—八八頁、一九九四年一二月

24. 「彷徨するアイデンティティ—ライフ・ドキュメントとしての日記と作品—」中野卓・桜井厚編『ライフヒストリーの社会学』所収、一六七一—一九〇頁、弘文堂、一九九五年二月

25. 「移民研究と生活史研究—日系人・日系社会研究の方法論的課題—」柳田利夫編『アメリカの日系人—歴史・都市・生活—』所収、二三九一—二五六頁、同文館、一九九五年三月

26. 「生活史の方法論」栗田宣義編『メソッド/社会学—現代社会を測定する—』所収、一一五一—三一頁、川島書店、一九九六年三月

27. 「ライフヒストリーにおける記憶と時間」『三田社会学』創刊号(三田社会学会)、六七一—八二頁、一九九六年七月

月

28. 「日本出稼ぎとエスニシティ変容」柳田利夫編著『リマの日系人—ペルーにおける日系社会の多角的分析—』所収、一三一—一五九頁、明石書店、一九九七年三月

29. 「中国の都市社会におけるインフォーマル・グリープ」『教養論叢』（慶應義塾大学法学研究会）第一〇八号「林嘉言先生退職記念特集号」五三—六七頁、一九九八年三月

30. 「再帰性と自己決定権—ポストモダンと日本社会—」田中宏・大石裕編『政治・社会理論のフロンティア』「慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念論文集』所収、二五一—二八三頁、慶應義塾大学出版会、一九九八年一〇月

31. 「都市民俗学と都市文化」宮家準編著『民俗宗教の諸相—宮家準先生退職記念論文集』所収、九三—一〇七頁、春秋社、一九九九年三月

32. 「民衆の生活世界—都市民俗と都市文化—」藤田弘夫・吉原直樹編『都市社会学』所収、一三八—一五六頁、有斐閣ブックスシリーズ、一九九九年七月

33. 「生活誌研究と奥井復太郎」川合隆男・藤田弘夫編『都市論と生活論の祖型—奥井復太郎研究—』所収、一三七—一五八頁、慶應義塾大学出版会、一九九九年一〇月

34. 「生活史調査の意味論」『法学研究』第七三卷第五号、一一二七頁、二〇〇〇年五月

35. 「現代の都市空間におけるメディアと祝祭」日本生活学会編『生活学 第二四冊○祝祭の一〇〇年』所収、二六一—二八二頁、ドメス出版、二〇〇〇年九月

36. 「都市化の構造と『郊外化』現象」『都市問題』（東京市政調査会）第九三卷第五号、二〇〇二年五月号「特集郊外化と都市社会」、三一—七頁、二〇〇二年五月

37. 「戦後日本社会のアイデンティティ論—重層的アイデンティティに向けて—」『法学研究』第七七卷第一号「川合隆男教授退職記念号」、二〇〇四年一月、七七—一〇二頁

38. 「戦後日本の市民意識と社会科学」有末賢・関根政美編『戦後日本の社会と市民意識』(叢書21COE-CCC多文化世界における市民意識の動態 7)所収、一一一九頁、慶應義塾大学出版会、二〇〇五年三月

39. 「ライフヒストリーにおけるオーラル・ヒストリー」『日本オーラル・ヒストリー研究』(日本オーラル・ヒストリー学会)創刊号、五〇一六四頁、二〇〇六年三月

40. 「都市空間の匿名性と若者の社会関係—フラグメンテーションと下位文化」『日本都市社会学会年報』二四 特集「都市と若者」(日本都市社会学会編)四二一五五頁、二〇〇六年九月

41. 「現代社会における都市と若者—匿名性と下位文化」『法学研究』第七九卷第一〇号、一一二四頁、二〇〇六年一〇月

42. 「死別の社会学序説」山岸健「責任編集」草柳千早・澤井敦・鄭暎惠「編集」『社会学の饗宴 I 風景の意味—理性と感性』所収、三一二五頁、三和書籍、二〇〇七年二月

43. 「第7章 日本の都市社会研究」大谷幸夫・北川隆吉監修『講座 日本の都市社会 第5巻』北川隆吉・有末賢編著『都市社会研究の歴史と方法』所収、文化書房博文社、一九三一二一八頁、二〇〇七年六月

44. 「総論 都市生活・文化・社会意識の特徴」大谷幸夫・北川隆吉監修『講座 日本の都市社会 第3巻』有末賢・北川隆吉編著『都市の生活・文化・意識』一九一四八頁、文化書房博文社、二〇〇七年八月

45. 「都市社会研究の系譜と都市社会学の射程—何が見落とされてきたのか」『法学研究』第八〇卷第九号、一一一九頁、一〇〇七年九月

46. 「第1章 総論 多世代交差世界と市民意識」渡辺秀樹・有末賢編『多文化・多世代交差世界における市民意識の形成』(叢書21COE-CCC 多文化世界における市民意識の動態 36)所収、一一一七頁、慶應義塾大学出版会、二〇〇八年一月

47. 「個人化とコミュニケーション概念の変容—古都・鎌倉のライフスタイル」慶應義塾大学法学部編『慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集 慶應の政治学 政治・社会』所収、二七一四八頁、慶應義塾大学法学部、二〇〇八年

二二月

48 「戦後社会調査史における被爆者調査と記憶の表象」『法学研究』第八三卷二号、三九一七二頁、二〇一〇年二月  
 49 「生活史の『個性』と『時代的文脈』」『法学研究』第八四卷第二号、二五一五一頁、二〇一一年二月  
 50 「生と死のライヒストリー——相互・循環・一回性」『法学研究』第八四卷六号、七七一〇六頁、二〇一一年六月

六月

51 「序章 生活史宣言の意図」有末賢『生活史宣言——ライヒストリーの社会学』所収、一一四〇頁、慶應義塾大学出版会、二〇一二年八月

52 「第一章 戦後被爆者調査の社会調査史」浜日出夫・有末賢・竹村英樹編著『被爆者調査を読む——ヒロシマ・ナガサキの継承』所収、一一三四頁、慶應義塾大学出版会、二〇一三年三月

53 「語りにいくこと——自死遺族たちの声」『日本オーラル・ヒストリー研究』第九号、三六一四六頁、二〇一三年九月

54 「ジエンダー・セクシュアリティとオーラル・ヒストリー」山田富秋・好井裕明編『語りが拓く地平』所収、一九五一二三頁、せりか書房、二〇一三年一〇月

55 「配偶者の死別と再婚」澤井敦・有末賢編著『死別の社会学』所収、一一八一四二頁、青弓社、二〇一五年五月

56 「集合的記憶と個人的記憶——記憶の共有性と忘却性をめぐつて——」『法学研究』第八九卷一号「関根政美先生退職記念号」、一九一四〇頁、二〇一六年二月

57 「公募特集『現代社会と生きづらさ』に寄せて」（有末賢・大山小夜共著）『社会学評論』二六四号、第六六卷第四号、四四六一四五九頁、二〇一六年三月

III. 編記

1. Gary Easthope, *A History of Social Research Methods*, Longman Group Ltd. 1974 = G・イーストホープ (川合 隆男・霜野寿亮監訳) 『社会調査方法史』 「第4章 参与觀察法と生活史法」 104-116頁、慶應通信、一九八二年一二月

IV. 報告書

1. 霜野寿亮・佐藤茂子・田中重好・有末賢 「月島調査」の周辺とその後」 『法学研究』 第五四卷第八号 「研究ノート」 四六一九〇頁、一九八一年八月
2. 地域生活研究会編 『大都市における社会移動と地域生活の変化』 「歴史研究編」 「社会調査編」 昭和五五度、五六年度文部省科学研究費による補助金総合研究 (A) の報告書、一九八二年三月
3. 倉沢進 『近代日本都市計画関連年表』 (協力者・有末賢・桜井厚) 国連大学人間と社会の開発プログラム研究報告 技術の移転・変容・開発—日本の経験プロジェクト「技術と都市社会研究部会」 国際連合大学、一九八二年五月
4. 『中央区佃島地区文化財調査報告』 東京都教育委員会、一九八四年一月
5. 門脇厚司 「研究主査」 『生活水準の歴史的推移』 総合研究開発機構、N I R A O U T - P U T 、九一一〇頁、一六一一八九頁、一九八五年三月
6. 『世代交代からみた二一世紀の郊外住宅地問題の研究—戦前及び戦後の郊外住宅地の変容と将来展望—』 環境文化研究所 (環境文化シリーズ) (大坂彰・山岡靖・和田清美・有末賢) (財)環境文化研究所、一九八五年一二月
7. 『都市の変容とライフスタイルへのアプローチ—都市研究会』 T R I - N E T W O R K 研究報告八八一三、(株)

東急総合研究所、一九八九年二月

8. 有末賢「首都圏の居住環境と社会的分離に関する研究」『住宅・土地問題研究論文集』第一九集、一〇一—一二四頁、財団法人日本住宅総合センター、一九九二年七月

9. 「東京圏一極集中の行方を占う—東京圏研究会」「東京圏一極集中化の現状と将来の展望」「東京圏研究会」を終えて TRI-NETWORK 研究報告九四一三、(株)東急総合研究所、一九九四年三月

10. 有末賢「社会学からみた余暇研究の系譜」『余暇研究の系譜—一九九三年度基礎文献プロジェクト研究報告』財団法人日本レクリエーション協会 余暇生活開発・レクリエーション総合研究所、一九九四年六月

11. 「都市居住の行方を占う—都市生活者ライフスタイル研究会」 TRI-NETWORK 研究報告九四一六、(株)東急総合研究所、一九九四年一二月

12. 『台場コミュニケーション調査報告書』(台場コミュニケーション調査研究会編) 梅沢印刷所、一九九七年一一月

13. 『近代鎌倉における『鎌倉らしさ』の構築』(鎌倉研究会「代表」有末賢編)、友遊書房(松尾浩一郎)、二二〇〇四年五月

## V. 書評・解説

1. 松本通晴編『地域生活の社会学』間場寿一編『地域政治の社会学』井上俊編『地域文化の社会学』『法学研究』第五七卷第七号、一〇一—一一一頁、一九八四年七月
2. 小林茂・寺門征男・浦野正樹・店田廣文編著『都市化と居住環境の変容』『法学研究』第六一卷第六号、一三六一四六頁、一九八六年六月
3. 今田高俊『自己組織性—社会理論の復活』『法学研究』第六二卷第四号、一五六—一六三頁、一九八九年四月  
中田俊造『娯楽の研究』『教育上より見たる娯楽と休養』(上・下)解説、石川弘義監修『余暇・娯楽研究基礎文

献集』別巻解説書、一二九一一二四頁、一五一一一五七頁、大空社、一九九〇年四月

5. 倉石忠彦『都市民俗論序説』『日本民俗学』(日本民俗学会)一八三号、九八一〇二頁、一九九〇年八月

6. 藤田弘夫『都市と国家 都市社会学を越えて』『法学研究』第六三卷第一〇号、一二一一一二七頁、一九九〇年一〇月

7. 上田喜三郎『陶工職人の生活史 民芸牛ノ戸焼親方の生涯』『週刊読書人』一九九二年四月六日

8. 奥田道大『都市と地域の文脈を求めて—二一世紀システムとしての都市社会学』『週刊読書人』一九九三年三月二二日

9. 高橋勇悦『東京人の研究—都市住民とコミュニティ』『都市高齢化と地域福祉日本都市社会学会年報15』一九九一七二頁、一九九七年六月

10. 中野卓『鮒網の村の四〇〇年—能登灘浦の社会学的研究』『シティズンシップと再生する地域社会 地域社会学会年報第10集』一八七一八八頁、ハーベスト社、一九九八年五月

11. 「書評リプライ・意味の重層性と現代都市文化」『日本都市社会学会年報』第一八号、園部雅久「書評・有末賢『現代大都市の重層的構造』一二九一三四頁、二〇〇〇年七月

12. 松田素二『抵抗する都市—ナイロビ 移民の世界から』『市民と地域—自己決定・協働、その主体—地域社会学会年報第13集』二三五一二三六頁、ハーベスト社、二〇〇一年五月

13. 中川清『日本都市の生活変動』『三田学会雑誌』(慶應義塾経済学会)第九四卷第三号、一八三一八六頁、二〇〇一年一〇月

14. 中野紀和『小倉祇園太鼓の都市人類学—記憶・場所・身体』『三田社会学』第一四号、一二九一三三頁、二〇〇九年七月

15. 田中重好『地域から生まれる公共性—公共性と共同性の交点』『三田社会学』第一六号、一五一一一五四頁、二〇一一年七月

16. 橋本みゆき『在日韓国・朝鮮人の親密圈—配偶者選択のストーリーから読む〈民族〉の現在—』『日本オーラル・ヒストリー研究』第八号、一七七一八〇頁、二〇一二年九月
17. 橋本和孝『地域社会研究と社会学者群像—社会学としての闘争論の伝統—』『地域社会学会年報』第二五集、一八九一九〇頁、二〇一三年五月
18. 「書評リプライ・ドキュメントとストーリー—水野節夫氏の拙著書評に寄せて—」水野節夫「有末賢『生活史宣言』を読む」『三田社会学』第一八号、一四六一五〇頁、二〇一三年七月